

手をたずさえて

“富中PRIDE”～自信と誇り～

- 自ら学ぶ生徒
- 正しく行動する生徒
- 健康でたくましい生徒



平成31年2月28日(木)発行
【発行責任者】郡山市立富田中学校長 熊坂 洋

『旅立ちの日に』の誕生にはこんなドラマがあった！ 式歌それぞれの背景や詩の意味を考えながら歌い上げよう！

2月26日(火)と27日(水)の午後には、全校生による卒業式練習が行われました。卒業式に臨む心構え、身だしなみ等についての話があり、礼法、入退場、そして合唱練習を行いました。全校生による『旅立ちの日に』、在校生の『はばたこう明日へ』、卒業生の『花束』、そして『校歌』の4曲の練習でしたが、練習を繰り返す中で声量も大きくなってきました。でもまだまだ良くなる余地はあります。今の富中生達なら、卒業式当日はきっと鳥肌が立つほどの合唱にしてくれると信じています。

さて、今や卒業式の定番となっている合唱曲『旅立ちの日に』ですが、この歌の誕生にはこんなドラマがありました。

埼玉県秩父市立影森中学校の小嶋登校長は、当時荒れていた学校を立て直すために、「歌声の響く学校」にすることを目指し、校内で歌う機会を増やしました。当初生徒達は抵抗していましたが、音楽の坂本浩美教諭と共に粘り強く努力を続けた結果、歌う楽しさによって学校は明るく変容しました。それから3年目の1991年2月、坂本教諭は集大成として「卒業する生徒達のために、何か記念になる、世界にひとつしかないものを残したい！」との思いから、合唱曲づくりを始めました。作詞を小嶋校長に依頼しました。その時は「私にはそんなセンスはないから」と断られましたが、翌日、坂本教諭の机には書き上げられた詞が置いてありました。その詞を見た坂本教諭は、なんて素適な言葉が散りばめられているんだと感激したそうです。その後、授業の空き時間に早速ひとり音楽室にこもり、楽曲制作に取り組むと、旋律が湧き出るように思い浮かび、実際の楽曲制作に要した時間は15分程度だったといいます。出来上がった曲は最初はたった1度きり、「3年生を送る会」で教職員達から卒業生に向けて歌うためのサプライズのはずであったのですが、その翌年からは生徒達によって歌い継がれるようになりました。しばらくは影森中学校だけで歌われた合唱曲でしたが、次第にまわりの小中学校でも歌われるようになりました。当時東京都の中学校で音楽教諭を務めていた作曲家の松井孝夫氏(『はばたこう明日へ』の作詞・作曲者でもある)は、この曲を知る

と混声三部合唱への編曲を行い、これが雑誌に取り上げられたことで、1998年頃までに全国の学校で歌われるようになりました。さらに2007年にSMAPが出演するNTT東日本のCMソングに起用されたのをきっかけに、卒業式で定番のように歌われていた『仰げば尊し』や『巣立ちの歌』などを抜き、全国で最も広く歌われる卒業式の歌になったのです。

私も今までの卒業式で、何度もこの『旅立ちの日に』を聴いてきました。聴く度に感動が湧き上がってきます。「自由を駆ける鳥」という歌詞が好きで、卒業生の旅立つその時の心境と見事にオーバーラップします。これからは歌い継がれていく名曲だと思います。

在校生が歌う『はばたこう明日へ』、卒業生の『花束』、それぞれにも作者の思いや願いが込められており、それらをしっかり咀嚼(そじゅく)〔意味や内容をよく考え理解すること〕し、歌い上げてほしいと願います。

みんなで協力してひとつのものをつくりあげるといことは、本当にすばらしいことです。中学校で経験したさまざまな取り組みを、卒業式の式歌は象徴していると思います。そして、もしかしたら、そんなすばらしい体験ができるのも、一生のうちで中学校が最後になるかもしれません。

だからこそ、全校生で「式歌」を大切に、思いを込めて歌い上げよう！



2年鈴木さん、県書きぞめ展『書きぞめ大賞』2年連続受賞！

学校だよりNo.46に掲載した通り、2年鈴木ひかりさんが、第63回福島県書きぞめ展において最高賞【県No1】『書きぞめ大賞』を受賞しました。昨年度に続き2年連続の受賞で、今年度は市書きぞめ展でも市長賞を受賞しており、偉業達成です。2月10日（日）には、福島市の県教育会館で行われた表彰式で表彰を受け、学校での受賞報告会では、立派なトロフィーとともに受賞を堂々と報告しました。「書は人を表す」といいます。鈴木さんの書には素晴らしい力を感じます。これからも心をこめて作品制作を続けてください。受賞おめでとうございます。



かがやくこと いくつか...

第11回受賞報告会より

2月26日（火）には第11回受賞報告会が行われました。運動部の活躍、市・県の書きぞめ展入賞、17文字作品、俳句、川柳、主張などの作品入賞、漢字検定、小さな親切善行、さらには多読賞（図書館で多くの本を借りた生徒の表彰）など、今回も様々な分野における生徒の活躍の報告をたくさん聞くことができました。すでに学校だよりで紹介してある受賞もたくさんあります。自信と誇りをもって、次のステップ、次のステージでのさらなる飛躍を期待します。



■ 郡山市「少年の主張」コンクール 2/6

中学生の部 **入選** 菅野明里 「明るい未来を信じて」 No.36で紹介

■ 第21回支部長杯争奪中学生剣道錬成大会 2/17

1年生男子の部 **第3位** 植田啓介 次の大会への弾みに!

■ 多読賞

1・2年生は今年度、3年生は平成28年度からの3年間の集計読書は心を豊かなものにしてくれます。多くの書物に親しんだ人達です。

【1・2年生の部】 佐々木漣 (121冊)、猪狩千陽 (130冊)、吉田果南 (95冊)
遠藤芳純 (112冊)、雨貝陽瑠 (108冊)、水口瑛太 (163冊)
高野功雅 (120冊) 緑川泰成 (185冊)

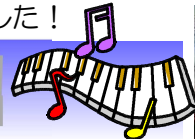
【3年生の部】 千葉彩乃 (305冊)、佐藤颯大 (374冊)、相川このあ (223冊)

創意工夫ある素晴らしい発表でした！

2月23日（土）には、郡山北ロータリークラブ主催の「第18回中学生インターンシップ体験発表会」が西田ふれあいセンターで開催され、北方部の5つの中学校の代表が発表しました。本校からは、今野虹典君と大越奏太君が代表で発表しました。まずは将来なりたい職業ランキングのクイズを織り交ぜて、今後10年間でなくなる職業はどんなものがあり、どんな職業が残っていくのか、それを考えつつ、「自分たちは職業に就くためには何を学んでいかななくてはならないのか」をまとめた内容でした。1年の時の「職業調べ」や「職業講話」、今年度実施した「職場体験」等から学んだ『挨拶、時間や約束を守ること、学校の教科の学習に一生懸命取り組むこと、基本的生活習慣を身につけることの大切さ』を伝えることができました。2人の発表には、他校生にはない創意工夫がありました。発表、ご苦労さまでした！



澄んだ歌声で聴衆を魅了！



2月23日（土）、JR郡山駅西口において、「第12回声楽アンサンブルコンテスト全国大会プレコンサート」が開催されました。3月に福島市で開催される声楽アンサンブルコンテスト全国大会を活気づけようと催されました。中学校7校、高校2校の合唱部が出演し、素晴らしい合唱を披露しました。本校からも合唱部の4名：村上沙由さん、滝田沙羅さん、栗城叶夢君、古川雄翔君が参加しました。中学校7校による合同演奏と参加者全員演奏に加わりました。その澄んだ歌声で駅構内にいる聴衆を魅了し、喝采を浴びました。4名の生徒達には、この経験を合唱部の今後のために生かしてほしいと思います。

